

ずいそう



芝公園界隈を散策

内山 康夫



港区芝公園エリアを歩いてみます。芝公園は一丁目から四丁目までの余り広くない範囲の地域となっていますが、やはりその中心は、なんといっても増上寺を中心とした緑豊かな地域です。特に芝公園(都立公園)は、1873年に開園して、上野恩賜公園に次ぐ古い公園となっています。またこの地域は、寺院等の宗教施設が数多く点在している地域で港区から風致地区の用途指定を受けていますので昔の風情が色濃く残っています。

歴史的背景から見たときには、その中心はやはり増上寺であり、徳川家の菩提寺として1598年に現在の地に移転して江戸幕府には大隆盛となったところです。

増上寺には、二代秀忠公、六代家宣公、七代家継公、九代家重公、十二代家慶公、十四代家茂公の六人の将軍が安置されています。また、各公の正室や側室も祭られています。家茂公の正室で静寛院和宮のお墓もあります。

江戸時代には、僧侶の修行及び学問所として大変な賑わいを博していたようです。常時三千人余りの修行僧がいたとされ、その境内の広さは二十五万坪程度と言われています。従って現在の東京タワー一帯も増上寺の境内となっていたようです。

その一角に金地院があります。当院は、1638年に現在の東京タワーの敷地を含む広大な境内にて創建されたが戦後に現在の地に再建立されたとされています。

やはり、増上寺や他の神社仏閣よりは、興味深く感じられるのが、これからご紹介する「幸稲荷神社」です。芝公園三丁目に位置してややもすると見逃してしまいそうな社殿ですが、びっくりするほどの歴史を重ねています。江戸時代の初期で都内でも最も古い神社となっています。

幸稲荷神社の創立は、1394年ですから増上寺よりは、479年以前となります。現在から見ると600年以上の時が経っていることとなります。

幸多きおやしろ「幸稲荷神社」の境内に入りますと、荘厳な空気が流れ時を忘れさせそうな感を感じながら、今流で言えば「パワースポット」ということでしょ

うか。

幸稲荷神社の宮司さんは、30歳前後のとても優しいお方です。何度かお会いする機会があり、その時に昔のお話をお伺いすることがあり、その話の内容が、とても興味深いものでしたのでご紹介いたします。

幸稲荷神社は、飯倉の交差点を東京タワーに向かって進み、(株)長谷川商店、ハセガワフローリストを左に進み、道なりにもう少し進むと東京都水道局芝給水所の前にあるのが当神社となります。宮司さん曰くこの道は、江戸時代からの道で非常に古い道とのこと。この付近は、鎌倉街道に当たっていたようで非常に人通りも多く、賑わいがあったとのこと。

江戸末期「幕末」においては、勝麟太郎こと勝海舟が赤羽橋や本所から江戸城に何度も天璋院「篤姫」に呼ばれ、登城したとの歴史の本に記されている場面があり、想像するにこの道を急いだのではないかと勝手に思いを廻らしています。幸稲荷神社を参るとまた別の時代に引き込まれる気持ちになるところです。勝海舟が紋付き袴で小走りに急いでいた様子が見て取れるような気がしています。

近年になり、芝公園地域も急速な発展により街全体が大きく変わることとなりました。最大のインパクトは、やはり東京タワーの建設が1957年にスタートして翌年の1958年12月に完成して営業を開始した事になります。現在では、日本国内はもとより海外のお客さんも大勢の方々が訪れる観光名所となっています。

昨年末には、日本電波塔株式会社のご発案により飯倉の交差点から芝公園交番までの都道を通称「東京タワー通り」と命名し使用することが港区役所からも承認を頂き看板も設置いたしました。

この「東京タワー通り」沿線には、歴史的建物も多く神社仏閣に限らず建造物の散策も興味深いところです。

まず、飯倉の交差点にある「ノアビル」は外観が斬新そのもので地下2階、地上15階建てです。竣工は、1974年で設計者は、白井晟一氏で施工は(株)竹中工務店となっております。建築家白井晟一氏(1905～1983)はベルリンで哲学を勉強した建築家で昭和10年から本格的に建築設計をスタートしました。ノアビ

ルは外観下層部に赤煉瓦を積み上げ、上層部に硫酸銅仕上げを施したインパクトのある建物です。

次にタワー通りを入ると二つの教会が並んで建っています。手前にあるのが「聖アンデレ教会」とその隣に「聖オルバン教会」が建っています。両教会も60年以上の歴史があります。礼拝のみならず各種イベント活動も行っており、親しみやすい教会として活動しています。

また、その向かいにあるのが、知る人ぞ知るという「フリーメーソン」の東京グランドロッジがあります、そもそもこの敷地は、戦前は日本海軍士官の親睦団体の水交社があったところ。戦後のGHQやマッカーサーの関係でロッジが出来たとなっています。

さらに進むと長谷川グリーンビルがあり本業は、「フラワーブティック」であり、そのビルの壁面は、ユニッ

ト型壁面緑化システムを採用して緑化事業を進めています。

その先に、1964年に竣工した「機械振興会館」があります、設計は(株)梓設計、施工は清水建設(株)で建築顧問は岸田日出刀先生です。この建物は、東京建築ガイドマップにも掲載されている、デザイン性の高い建築物として推薦されています。

このように芝公園界隈には、江戸時代の想いにふけったり、戦後の日本の歴史を体感できる地域となっております。

是非、「三丁目の夕日」の時代にタイムスリップして、東麻布の「五代目 野田岩」で鰻を食べて芝公園界隈を散策してみても如何でしょうか。

——うちやま やすお (一財)機械振興協会 理事・事務局長——

